

視覚的スケジュールセット



縦並びの弁別は、左から右の横並びよりも先に発達するので、弊社の視覚的スケジュールは上から下にスケジュールを並べるようにデザインされています。このスケジュールボードは10から15枚の絵カードを1度に並べることができます。学習者の一日がこれよりも多くの活動が含まれている場合、スケジュールをまず午前中の活動を並べ、その後「午後」の活動に並べ替えることができます。

黒い枠：視覚的スケジュールの上の部分：「現在」の活動の絵カードを置く所。

終わりボックス：スケジュールの下に設けてあります。学習者が終わった活動の絵カードをこの箱に入れます。これを行うことで、学習者が完了したばかりの活動を覚えておく必要がなくなります。

スケジュールに従うように教える理由

私たちは皆、自分の時間を管理し、予定をチェックするなど、様々な視覚的ツールを使っています。今日、今週、また今月行わないといけない多くの活動を管理するために、いつ・何をすべきかという事を全て記憶する代わりに予定帳やすべき事のリストを使います。子どもたちも、どんな活動があって、いつそれらの活動が起こるかを知りたいのです。そこで、私たちは活動の順序を知らせるための視覚的リマインダーシステムを参照するように教えます。

私たちが対象とする多くの学習者たちは絵カードを使用しコミュニケーション（表出コミュニケーション）をとっているため、スケジュール用（理解コミュニケーション）に使用する絵カードは学習者が表出コミュニケーションとして使用する物とは異なるサイズにすることをお勧めします。通常、スケジュールに使用する絵カードは表出コミュニケーションの絵カードよりも大きめです。

単独の絵カードの指示に従う

学習者に参加してもらいたい個々の活動、あるいは学習者にとってもらいたい アイテムなどは絵カードで表すことができます。一連の絵カードを順番に確認し一日の中にある活動を管理することを学習者に求める前に、まず個々の絵カードが何を意味しているかという事を学習者に教えないといけません。

最終的には学習者が私たちの助けを借りずに視覚的スケジュールに従うことが目標であるため、一枚の絵やシンボルの指示に従うことを教えるにあたり、口頭で促すことはしないことをお勧めします。絵またはシンボルを学習者に示し注意を引き付けますが、活動、場所また、アイテムの名前は口頭で言いません。これを行うことで、学習者が表示された活動、場所やアイテムの絵を手掛かりに応じるという長期的な目標を達成するのに役立ちます。

選択肢の提示

私たち誰もが皆、選択肢が強力な強化子であると同様に学習者に選択をする機会を与えることが重要であると考えています。これらの選択肢は様々な活動、お手伝い、または強化子を基にしたものなどがあります。スケジュール上にこれらの選択肢を様々な方法で表示することができます。例えば、スケジュール上に2枚の絵カードが隣同士並べ「この2枚から選んでください」と表示する。また、2つ以上の選択肢を提供したい場合、アクティビティボードと同じ色の「選択カード」を表示することもできます。これは学習者がアクティビティボード上に表示されているいくつかの項目から選ぶことを示します。学習者は通常アクティビティボードから絵カードを選び、対応する選択カードに貼ってから活動を行います。



学習者が一日の中にある全ての活動を表す視覚的指示を一つずつ従えるようになったら、それらの絵カードを組み合わせるスケジュールに整理することによってある活動から別の活動へ移行することを学習者に教えます。学習者が一つの視覚的指示に答えることができるので、新しいレッスンでは活動から活動に移行するように教えていきます。学習者が学ぶ一般的な手順は次の通りです：

- 1) スケジュールの所へ行く
- 2) 一番上の絵カードを取る
- 3) 上の黒い枠（これからする活動）に絵カードを貼る
- 4) 活動を行う
- 5) スケジュールに戻る
- 6) 黒い枠の中に貼ってある絵カードをはがし、
「おわり」ボックスに移動する
- 7) 一番上の絵カードを貼る
- 8) 上の黒い枠に絵カードを貼る

「逆行連鎖法」を使用し身体プロンプトを使ってこの手順を教えます。個々の活動の終わりに課題の終わりを学習者に告げる自然な手がかり（例：タイマーがなる、食事が終わる、テレビ番組が終わるなど）は何かという事を確めます。これは次の活動は何かという事を確認するためにスケジュールに戻る学習者の合図となります。

スケジュールに従うを教えるにあたって関連したその他の教材はこちら：

教育へのピラミッドアプローチ®第2版、アンディ・ボンディ博士 著作
スケジュール絵カード集 Pics for PECS® 絵カード集（ダウンロード版
またはCD版）

スケジュールに従う教え方については「応用行動分析入門：教育へのピラミッドアプローチ®」ワークショップへ受講者皆様へ配布されている「教育へのピラミッドアプローチ®」の書籍または「PECS®レベル1ワークショップ」の受講者皆様へ配布されている「PECS®トレーニングマニュアル、第2版」をご参照ください。

